

健康栄養科学研究部会

日本生理人類学会



北海道大学大学院保健科学研究院
2024 年度第 4 回保健科学セミナー



北海道大学環境健康科学研究教育センター
2024 年度第 5 回公開セミナー

プログラム

14:00 開会挨拶・趣旨説明

山内 太郎 教授 / センター長 / 部会長
北海道大学大学院保健科学研究院
北海道大学環境健康科学研究教育センター
日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会



14:10

講演
1

「高齢期の体組成と健康寿命」

牧野 圭太郎 特任助教
北海道大学環境健康科学研究教育センター

講演
2

「歯周病が全身にもたらす影響」

有馬 弘晃 助教
長崎大学熱帯医学研究所

講演
3

「人類の進化と適応に腸内細菌が果たしてきた役割」

梅崎 昌裕 教授
東京大学大学院医学系研究科



16:20 パネルディスカッション

17:10 閉会挨拶

18:00 情報交換会

2024
12/14 SAT

14:00 - 17:20
ハイブリッド開催
参加費無料

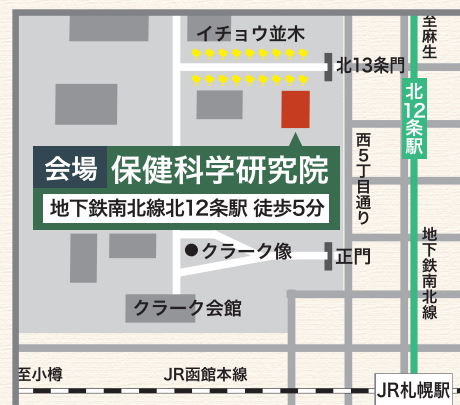
18:00- 情報交換会
(6,000 円程度)

お申込み先：
北海道大学大学院
保健科学研究院

申込み
フォーム



北海道大学大学院
保健科学研究院
C 棟 6 F 大会議室
(札幌市北区北 12 条西 5 丁目)



※オンライン参加をご希望の方には
開催日が近づきましたら Zoom の
アドレスをメールにてお送りします

日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会

講演要旨

講演 1

「高齢期の体組成と健康寿命」

牧野 圭太郎 特任助教 北海道大学環境健康科学研究教育センター

高齢期には加齢とともに筋肉量の減少や筋力の低下が生じることが知られており、このような状態はサルコペニア（Sarcopenia）と呼ばれる。高齢期における筋肉量の維持改善には適切な栄養摂取による筋タンパク質の合成が不可欠であり、本研究部会においても重要なテーマの一つと考えられる。また、近年の様々な調査研究から、サルコペニアはその後の転倒や骨折、入院、生活機能障害などの生命予後を悪化させることが明らかにされつつ

ある。したがって、健康寿命の延伸を実現する上で、サルコペニア発症のリスク因子、あるいはサルコペニア高齢者の予後を左右する要因の解明は喫緊の課題と考えられる。本発表では、地域住民を対象としたコホート研究の成果から、サルコペニア高齢者における生活機能障害の発生リスクについて、特に運動（身体活動）の側面から考察したい。

講演 2

「歯周病が全身にもたらす影響」

有馬 弘晃 助教 長崎大学熱帯医学研究所

歯周病は世界で最も罹患率が多い感染症としてギネス世界記録に認定されている。軽度の歯周病では歯磨きをした際に歯茎から少量の出血が見られる程度であるが、病状が進行すると歯周ポケット（歯と歯茎の隙間）が深くなり、歯を支える歯槽骨が溶け、多くの歯が失われることがある。重度の歯周病では、食べ物を噛むことが困難になり、噛み合わせが悪くなることで生活の質（QOL）の低下が懸念されている。しかし多くの場合、歯周病は

自覚症状が乏しく痛みを伴わないため、治療や予防が遅れている。近年、歯周病が糖尿病や心血管疾患、関節リウマチなどの全身疾患と関連し、さらには妊婦において早産や低体重児出産のリスクを高めることが報告されている。本発表では、私たちに身近な歯周病が全身の健康に及ぼす影響と、発表者がルワンダ共和国で実施している妊婦の歯周病に関する研究を紹介する。

講演 3

「人類の進化と適応に腸内細菌が果たしてきた役割」

梅崎 昌裕 教授 東京大学大学院医学系研究科

アフリカで進化したホモ・サピエンスは、地球上のさまざまな環境に拡散し生存するプロセスで、強い栄養ストレスに適応したと考えられる。発表では、調理技術などの文化適応に加えて、腸内細菌による栄養修飾が栄養ストレスの緩和に寄与したという仮説を提示し、腸内細菌

による栄養修飾の具体的なメカニズムを議論したい。特にパプアニューギニアにおける低タンパク質摂取に着目し、腸内細菌の役割を考えてみたい。

パネルディスカッション

座 長 山内 太郎 北海道大学大学院保健科学研究院 教授／
北海道大学環境健康科学研究教育センター センター長
パネリスト 梅崎 昌裕 教授、有馬 弘晃 助教、牧野 圭太郎 特任助教

お問合せ

北海道大学大学院保健科学研究院 広報室
Pr-office@hs.hokudai.ac.jp
研究部会 HP : https://jspa.net/section_06

